

二〇一三年 四月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

願はくは深く無常を念じて、いたづらに後悔を貽(のこ)すことなかれ。

『教行信証』

四月一日より新年度がスタートしました。新しい年度をみなさんはどのような心境で迎えたでしょうか。勉強のこと、クラブ活動のこと等、昨年度の反省を踏まえ、新たな目標に向けて気持ちが高まっていることだと思います。

今月の言葉に述べられているように、仏教では「無常」を説きます。「無常」とは仏教の中心となる教えの一つで、すべては移り変わっていくことを意味します。私たちは後戻りができない、最初で最後の貴重な時間を日々過ごしています。したがって、始まったばかりの今年度も最初で最後です。もっと勉強しておけば…、もっと部活の練習を真面目にしておけば…等の後悔を残すことなく今年度も自分の目標に向けて精一杯精進していきましょう。

今月の聖語

足りないものは音を立てるが、満ち足りたものは全く静かである。

『スッタニパータ』

日常生活を振り返ってみると、私たちの心は満たされていないときに音を立てて騒ぎ出します。例えば、「〜を買いたい」「〜が欲しい」等の欲望は次から次に音を立てるように溢れてきます。みなさんも必要以上にものを求めてしまい、欲の心に振り回されてしまっていることはありませんか。一方、私たちの心は、満ち足りていることには気が付きにくいものかも知れません。

以前にも「足ることを知らない者は富んでいても貧しい」という釈尊の教えを紹介しましたが、足ることを知らず、自分の欲しいものばかりに心を奪われてしまうと、物質的には豊かになっても心が満たされることはありません。「こ」で改めて釈尊に教えられることは、足ることを知るといふ心の持ち方だと思えます。

つい欲の心が音を立ててしましますが、一度立ち止まって自分自身の心を見つめてみてください。「〜がない」「〜が欲しい」とあれこれ求め過ぎず、時には「〜は持っている」「〜がある」という視点、つまり満ち足りたものに気付き、心静かに過(こ)すことも大切だと思います。

合掌

宗教教育係